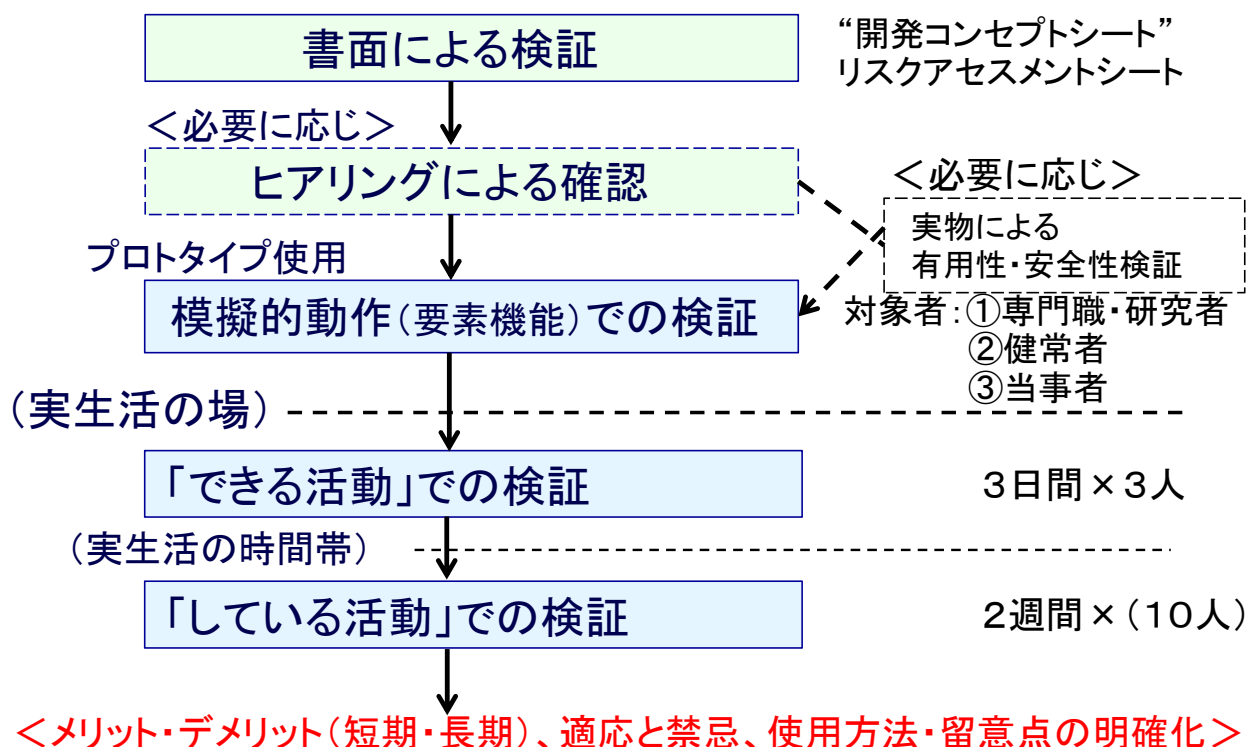


基準作成状況 効果評価

(独) 国立長寿医療研究センター 大川弥生
E-mail okawa@ncgg.go.jp
<コピー・引用の場合はご連絡下さい>

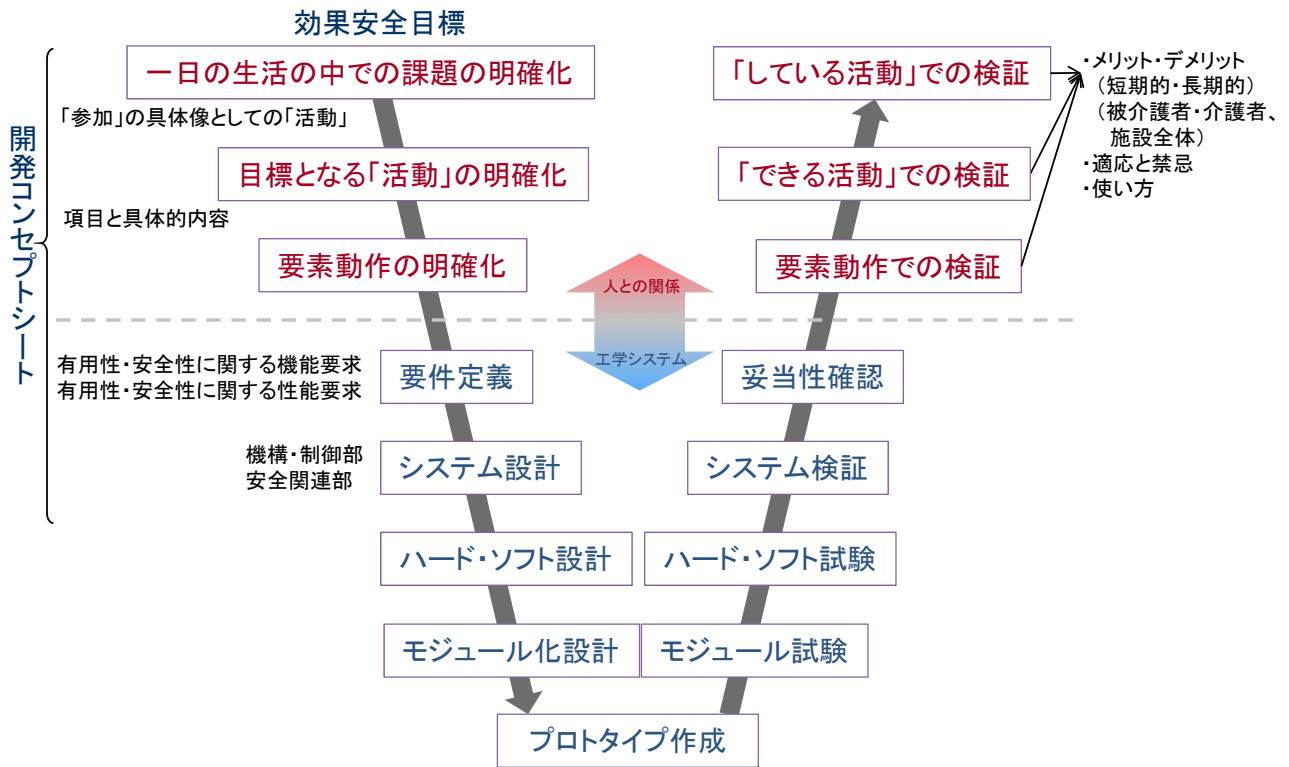
1. 効果・安全検証の段階的進め方

効果・安全検証の進め方



2. ロボット介護機器の開発プロセス

ロボット介護機器の開発プロセス(案)

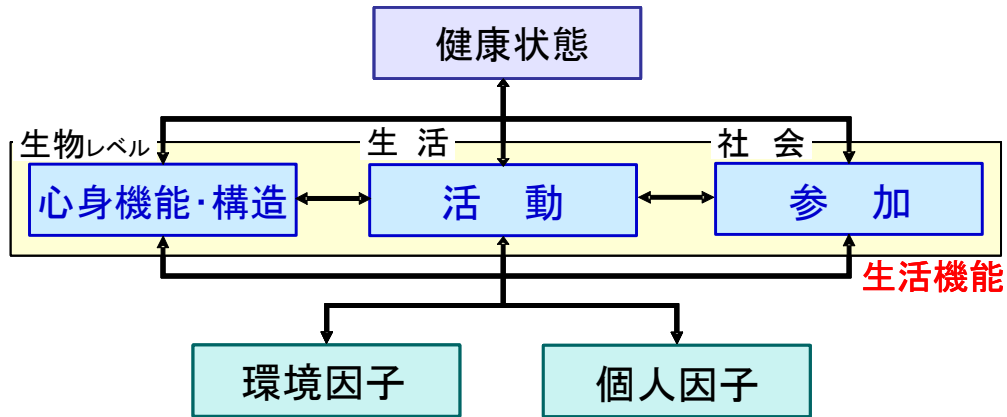


3. 開発コンセプトシート (案)

具体的内容の記載例

<参考>

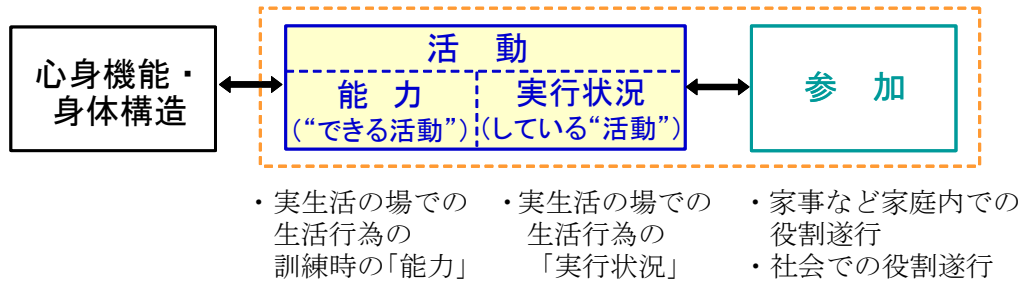
生活機能モデル (I C F ・ WHO、2001) ^{2) ~6)}



参加 : 仕事、家庭内役割、地域社会参加 等
 活動 : 歩行、家事、仕事などの生活行為
 心身機能・構造 : 心と体のはたらき、体の部分 等
 健康状態 : 病気、ケガ、妊娠、高齢、ストレス 等
 環境因子 : 建物、福祉用具、介護者、社会制度 等
 個人因子 : 年齢、性、ライフスタイル、価値観 等

矢印はこれらが互いに影響しあうことを示します

生活機能の3つのレベル (大川、2004) ^{2) ~6)}



- 1) 大川弥生 : 生活機能向上に向けたロボット研究・開発の戦略 : QOL向上の具体化技術の開発のために. 日本ロボット学会誌, 28 (9) : 1066-1070, 2010.
- 2) 大川弥生 : 「動かない」と人は病む ; 生活不活発病とは何か. 講談社現代新書、講談社, 2013. (<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/35918>)
- 3) 大川弥生 : 生活機能とは何か ; ICF : 国際生活機能分類の理解と活用. 東京大学出版会, 2007
- 4) 大川弥生 : 「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用 : 目標指向的介護に立って. 中央法規出版, 2009.
- 5) 大川弥生 : 新しいリハビリテーション ; 人間「復権」への挑戦. 講談社現代新書、講談社, 2004.
- 6) 大川弥生 : 介護保険サービスとリハビリテーション ; ICFに立った自立支援の理念と技法. 中央法規出版, 2004.
- 7) 上田敏、鶴見和子、大川弥生 : 回生を生きる ; 本当のリハビリテーションに出会って. 三輪書店、1998 (増補版、2007)